

あくていぶ



わがまちたかつき
切り絵紀行

「バスに乗って杉生を訪ねる」

切り絵 作：生地 高芳(高槻市在住)

特集

第36回平和展

平和な未来に向けて私たちができること

第36回 平和展



平和な未来に向けて 私たちができること

原爆の恐ろしさや「戦争の悲惨さ」、「平和の尊さ」を次世代へ継承し、市民の非核・平和意識の高揚を図ることを目的として、令和4年8月4日（木）～5日（金）の2日間にわたり、市生涯学習センターで第36回平和展「平和な未来に向けて私たちができること」を開催しました。



特別 展示

世界を平和にするためのささやかな提案

「世界を平和にするためのささやかな提案」（河出書房新社出版）の中から、世界を平和にするために15名の著名人の多彩な提案をパネルにし、展示しました。

女優・ユニセフ親善大使の黒柳徹子さんは、「自分の考えを声に出し続けましょう」の提案では、この平和が少しでも長く続くよう、誰もが自分の考えや意見を声に出していったらよいということでした。



資料 展示

ナピタンの ピースタイムトラベル

平和を学ぶタイムトラベル（時間旅行）として、77年前の原爆投下など悲惨な戦争の状況を小学生向きにパネルにし、クイズラリーも交えながら、分かりやすく解説していました。

参加者 からの コメント

げんしばくだんなんか今まで考えたことがなかったけれど、今日げんしばくだんのせいで多くの命を落とし、いろんな物がひがいをうけ、多くの人々が悲しんだこともあらためて知って、自分も悲しくなってきた。

平和の木・絵本コーナー

このほか、木の葉のカードに平和の願いを込めたメッセージを書く「平和の木のコーナー」や語り伝えたい平和の尊さとして、戦争を語り継ぐ「平和に関する絵本コーナー」などもありました。



◀ 平和の木のコーナー

高槻市原爆被害者の会の語り部さんの声かけて、来場者が書いた、たくさんの平和のメッセージが貼られました。



平和に関する絵本コーナー▶



音楽祭

愛・いのち・平和

音楽祭は3年ぶりの開催となり、子どもから高齢者までの幅広いメンバーが参加。女性合唱や男性合唱、混声合唱などのそれぞれのグループが個性を生かした素晴らしい歌声を披露しました。

愛・いのち・平和への願いを込め、会場いっぱいに広がる歌声が観客を魅了しました。

また、音楽祭開会前にセレモニーが行われ、濱田剛史市長と山口重雄市議会議長のあいさつの後、出演団体代表・伊藤みゆきさん（写真下）が力強く非核平和都市宣言を朗読しました。

参加者からのコメント

美しい歌声を重ねて聴くうちに、これこそが平和だと思いました。永久に人々の歌声がたえることのないように…ウクライナに思いを寄せて！



高槻市
昭和58年3月22日

世界の恒久平和は、人類共通の願いである。この当然の願いに反して、核兵器の保有、増強が続けられ、人類の生存に深刻な脅威を与えている。
わが国は、世界唯一の核被爆国として、その被害の恐ろしさ、被爆者の苦しみを世界に向けて訴え、核兵器の完全廃絶に積極的な役割を果たさなければならぬ。高槻市は、平和を愛する文化都市として、世界のすべての国が「持たず、作らず、持ち込ませず」の非核三原則を厳守し、地球上から核兵器が廃絶することを願い、ここに「非核平和都市」となることを宣言する。

高槻市非核平和都市宣言

(全文)

映画会

「この世界のさらにいくつもの片隅に」を上映



©2019こうの史代・コアミックス
/「この世界の片隅に」製作委員会

1944年、主人公すずは結婚して、広島県の呉に行き、夫の周作やその両親たちと新しい生活を始める。次第に戦況は悪化し、生活にも影響がはじめるが、すずは、日々知恵を絞って生きようとする。そして、1945年3月以降、呉はたびたび空襲を受けるようになり、すずも大切なものを失ってしまう。そして、1945年の夏がやってくる。激しい空襲や原爆投下もあり、呉や広島も焼け野原となってしまう。それでも、すずは、自分をこの世界の片隅で見つけてくれ、居場所をくれた周作への愛と感謝を込めて「ありがとう。この世界の片隅に、うちをみつけてくれて」と伝えるのです。戦争の悲惨さを描き、戦時下に優しくたくましく生きる姿を描いた感動的な作品でした。



寄贈折り鶴コーナー

寄贈された折鶴は広島市の平和記念公園内にある「原爆の子の像」に捧げさせていただきます。

参加者からのコメント

二度と戦争を繰り返す事なく、平和な世界をきずかなければならない…、願いも…。世界では戦争がくりかえされている現実がある。今も生かされている命に感謝しつつ、しっかりと生きていかなければならないと思う。

あちこち訪問



リトル沖縄を訪ねて

50年前(1972年)の5月15日、太平洋戦争の後、アメリカに統治されていた沖縄が日本に復帰しました。

今回、あちこち訪問で、大正区にある「リトル沖縄」(JR大阪環状線「大正駅」)を訪ね、沖縄の歴史や暮らしなどを学びました。



大正区は、区全体が運河に囲まれていて、島状の地形になっています。

大正会館で金城馨〔かなぐすく(きんじょう)かおる〕さん(私設図書館関西沖縄文庫主宰)から「フィールドワーク沖縄の歴史」の話をうかがい、大正区の街を案内してもらいました。

大正区には、沖縄出身者が多く、人口7万人のうち約4分の1を占めると言われています。

沖縄から大正区へ

大正区への移住者が本格的に増えたのは、第一次世界大戦後。その頃大阪は、紡績産業をはじめとする軽工業の発展により多くの労働力を必要としました。当初は出稼ぎのつもりだった人々が定住し、沖縄出身者も大正区に住むようになりまし。このように、経済の一端を支えてきたものの、同じ日本人でありながら、沖縄出身と言うだけで差別され、偏見の苦しい時代を生き抜いてきたそうです。



大正区の千島公園には、1984年ロサンゼルス五輪体操の金メダリスト具志堅幸司さんの記念碑が建てられています。具志堅さんは、名前は沖縄の苗字ですが、大阪市出身です。当時は沖縄と言うだけで、偏見や差別がありました。

参加者の感想

- 未だに基地問題をかかえる沖縄。同じ日本人として共通の認識をもち、問題意識をもって、つながっていくことの大切さを学びました。
- 2022/6/23「沖縄慰霊の日」の「沖縄全戦没者追悼式」において平和の詩を朗読した、「こわいをして へいわがわかった」と7歳のあどけない表情と大きな声の朗読に感動し、戦争体験者が少なくなったが、次に継承していかななくてはならないと、あらためて責任を感じた見学でした。
- ロシアのウクライナ侵攻、女性問題などを交えて、私達に理解しやすいよう、沖縄の不条理を伝えて下さった金城さん。「人権という取り組みが必ずしも差別をなくさない。」「沖縄に寄り添うは対等ではない。」「他者への理解ではなく、自分を理解する」…ハッとさせられる文言もたくさんありました。
石敢當、シーサー、街並み、デイゴの花など、沖縄らしい空気をたっぷり吸い、サンプルランチを食し、心地よいコーレーグース(沖縄のカラシ)のかかった、ユニークで型にはまらない金城さんの人間味にも魅了された一日でした。日本に復帰して50年、未だに重い基地負担を課されている沖縄、うちなーんちゅ(沖縄の人)の目に今の日本の政治はどう映っているのでしょうか。金城さんの放った「もうちょっと考える」ことから、いろいろ見えてくる気がします。

戦争を語りつく



高槻市人権まちづくり協会 人権啓発指導員 藤澤 善富

戦争を語りついでいくことの大切さについては、だれしのご理解いただけることだと思います。1945年8月15日に終戦を迎えた当時の人々の多くは、戦争が終わったことの安ど感と、二度と戦争を起こしてはいけないという平和への強い思いを持ったことと思います。

そして、今年の8月15日で戦後77年となります。戦争のことが記憶にある年齢の方とえば終戦の年に3歳だった人で現在80歳ですから、それ以上の方となります。

また、実際に戦争に行かれた方となれば、終戦の年に18歳としても95歳以上の方となり、年々、戦争の話を直接聞く機会は減ってきていると言えます。

私自身も戦後生まれで直接的な戦争の体験はありません。ただ、親世代は戦争の体験があり、小学生の時に父親から聞いた戦争の話は今でもよく覚えています。

（父親から聞いた、おじの戦争体験の話）

『おじは、お腹の大きかった妻を残して、日中戦争に出征しました。ある時、おじの小隊が、斥候（偵察に出る事）に出た帰りに橋を落とされ、八路軍（中国共産党軍の呼び名）の待ち伏せを受け、銃撃戦になりました。その時、岩かげに隠れたおじがまず思ったことが「死んだらあかん」ということでした。

そして、その銃撃戦も映画の様に頭を出し、照準をしておの射撃などできず、岩の上から銃だけを出しての射撃しかできなかつたそうです。銃も打ち続けると銃身が熱くなるので、水たまりの水で冷やしながら打ち続けました。

銃撃戦の結果、囲みを破つたおじの小隊は、そのまま川へ飛び込んだそうですが、上からの射撃を受けて皆、亡くなつたそうです。おじは川へは跳び込まず、岸の茂みに隠れ、暗くなつてからほふく前進で部隊まで帰りつきました。

その後、おじが無事に内地へ戻つて来た時、お腹の中にいた子どもは小学生になっていました。』

こういった戦争のことを直接、聞くことが難しくなつてきた今、戦争の記憶を風化させないためにも、いかにして次の世代へ自分が聞いた戦争のことを語りついでいくかが大切な事と言えます。とりわけ、小さな頃に聞いた話はその子の中に残ります。

そこで、語り継ぐ上での一つのやり方として、身近にある、「戦争を題材にした絵本」が有効であると言えます。その絵本を読み聞かせするだけでなく、その本を読んだ後に、「おじいちゃんから聞いた話だけれど」と、聞いた戦争の話を語つてあげることで、戦争を語り継ぐことにつながります。ぜひ、1冊の絵本をいっしょに読んだ後に、あなたが聞いた戦争についての話をお子さんやお孫さんに語つてあげてはいかがでしょうか。

心の豊かさを求めて



令和4（2022）年6月4日午後2時から市生涯学習センター多目的ホールに、真宗佛光寺派長谷山北ノ院大行寺住職 英月さんをお迎えして「あなたが あなたのままで 輝くために」と題し、講演会を開催しました。ご自身の体験談や仏教の話を交えたお話で、会場を訪れた207名は聞き入っていました。

英月さんのお話を聞いて、印象に残った話を少し紹介したいと思います。

『人生の中でいろいろなことがあっても、無駄なことなどありません。その1つが欠けても今日の出会いはないわけです。人生が変わるとは、命の質が変わるとは、虚しくない人生、虚しくない命のことです。一つの物が手に入ると、もっともっとと思います。でも、500歳まで生きるのは無理だし、それぞれの都合や思いがあるので、みんな仲良くも無理です。欲を追求すると永遠に満たされません。

命の真実とは何か、それはアミダ（阿弥陀）です。アミダはa-mitaというサンスクリット語です。aは「無」で、mitaは「量」です。すなはち、「無量」という意味です。命の真実とは「無量寿仏」：「私達は量ることの無い、命をいただいています」ということです。これに気づかないという闇は、すなはち世間です。世間の価値は、勝ち負けや損得等の何か得ることがないかと思う価値ばかりです。

無駄なことなど何も無いことに気づくことで、今が変わります。未来も変わります。過去も変わります。意味が変わります。過去があるから今があります。すべてを包み込む、そのままですくわれる。私を私に変える、あなたもあなたのままで、命が輝きます。』

SDGsって、知っていますか？



このコーナーでは、17の目標がある。SDGsを紹介しています。SDGsとは、「持続可能な開発目標」。

簡単に言うと「世界中にある環境問題・差別・貧困・人権問題といった課題を、世界のみんなで2030年までに解決していこう」という計画・目標のことをさします。SDGsを自分自身の問題として捉えて、できることから取り組んでみませんか。



2 飢餓のない世界へ

食べることは生きること。それは人類共通です。日本の食料自給率は約40%と、先進国の中では最低水準で、食べ物の多くを海外からの輸入に頼っています。一方で、まだ食べられる食品を年間約650万トンも捨てています。（2015年環境庁発表）それは世界の一年間の食料支援である320万トンの2倍以上にあたります。

食べ物不足の主な原因は、紛争や武力衝突からの避難、気候変動です。栄養失調が深刻である反面、世界で一部の地域では栄養過多が近年の課題で、食料が十分生産されていても、公平に分け合せていません。目標2が目指す世界は、すべての人が一年中食べ物の心配をしなくてすむ世界です。



4 質の高い教育をみんなに

教育をすべての人に
すべての子どもが、基本的な能力を身につけるために、質の高い教育を受けられるようにする。男女の差がなく学べるようにする。障がいがあっても、働きがいのある仕事に就いたり、より高い技術を身に付けられるよう訓練するなどです。

未来のよりよい社会を築くために、「教育」は、すべてのSDGs（エスディージーズ）達成のための「土台」です。目標4を達成するために、すべての人に、公平に質の高い教育を提供し、生涯にわたって学び続けられるようにします。また、国・地域を超えた学び合いや、協力し合う関係づくりが重要です。

人権を考える市民の集い

人権講演会

「江戸時代に学ぶ人と人とのつながり」

日時 令和4(2022)年12月10日(土)
午後2時(開場:午後1時30分)

講師 さんゆうてい らくしょう
三遊亭 楽生 さん(落語家)
笑点でお馴染みの6代目三遊亭円楽の総領弟子。2008年真打昇進。本格的な古典落語を演じ、声量の豊かさ
とメリハリの利いた高座が魅力。

会場 市生涯学習センター 2階 多目的ホール

定員 300名(申込順・申込先:当協会)

入場料
無料

保育あり
[3歳以上未就学児]
[5名まで・要申込]

手話・要約筆記
あり



令和4(2022)年度 人権週間記念事業

「人権啓発作品募集」

21世紀を「人権の世紀」とする取り組みが進められる中、市民一人ひとりが人権問題を「自分の問題」として捉え、お互いの人権を尊重し合う高槻市を築いていくことを目的に、人権啓発作品を募集します。奮ってご応募ください。

1. 募集対象(各部門) ※応募作品は未発表のオリジナル作品に限ります。原則、各部門1人1点とします。

①**作文(読書感想文を含む)** →400字詰め原稿用紙**4枚以内**。

②**標語**→**30字程度**で形式は自由。用紙は**A3サイズ(297×420mm)以下**。

③**絵画(ポスターを含む)** →手書きの場合:用紙サイズは画用紙**4つ切以下**。

パソコン作成の場合:用紙サイズは**A2サイズ(420×594mm)以下**。

2. 作品テーマ:人権・平和に関わるテーマ ※下記はテーマの一例です。

- 人権の尊さ ●お互いの人権を守ること ●平和 ●勇気 ●いじめをなくそう
- インターネット上の人権侵害 ●差別のないまち ●助け合い ●高齢社会
- インクルーシブな社会(排除しない社会) ●国際理解(相手を尊重することで相互理解を図ること)
- 多文化共生(文化的違いを認め合い、対等な関係で共生していくこと) ●誰一人取り残さない世界
- LGBTなどの性的マイノリティ/性の多様性 ●命の大切さ など

3. 応募資格 市内に在住または通勤・通学・通園する人

4. 募集期間 令和4(2022)年7月4日(月)~10月14日(金) 必着

5. 応募方法 応募票を記入し、作品の裏面に貼り付け、応募先へ郵送するか、直接お持ちください。

6. 応募・問い合わせ先

〒569-0071 高槻市城北町1丁目14-6 荒木ビル3階

一般社団法人高槻市人権まちづくり協会 TEL:072-647-7825 / FAX:072-647-7233

応募票 ※下記サイトでダウンロードするか、市内公共施設・当協会事務局でも用意しております。

*応募票ダウンロード→高槻市人権まちづくり協会ウェブサイト <https://www.takatsuki-jinmati.org>

2022年度 人権連続講座を開催します

様々な人権課題をやさしく学べる講座を開催します。(1講座のみの参加でもOKです) 皆さまのご参加をお待ちしております。

- 会 場 クロスパル高槻(総合市民交流センター)7階 702号室
*JR高槻駅中央出口の南側出ですぐ
- 定 員 各回100名(要事前申し込み・先着順)
- 申込期間 令和4年9月5日(月) 午前9時から(各回講座開催日1週間前まで)
- 申し込み (一社)高槻市人権まちづくり協会(下記まで)
※申込期間経過後も、定員に空きがあれば申し込みを受け付けます。

参加費
無料

手話
通訳

要約
筆記

あり

第1回

9/30
14時~



さいとう まお
齋藤 真緒さん 立命館大学産業社会学部教授

テーマ 子ども

ヤングケアラーを知っていますか?子ども・若者の人権という視点から考える
大人に代わって家族の介護に追われる子ども・若者が、「ヤングケアラー」です。知っておきたい現状と問題点を学び、地域の中の活動で私たちにもできることはないか、探っていきましょう!

第2回

10/7
14時~



たまい ひろし
玉井 浩さん 大阪医科薬科大学小児科名誉教授

テーマ 障がい・いのち

出生前遺伝学的検査と胎児の人権

「NIPT」という胎児の遺伝学的検査が臨床に導入されました。非確定的検査ですが、その手軽さから急速に広がる一方、十分なカウンセリングが実施されていない現状があります。胎児の人権も一緒に考えてみましょう!

第3回

10/14
14時~



くりもと あつこ
栗本 敦子さん Facilitator's LABO(えふらぼ)

テーマ 偏見

無意識の思い込み「アンコンシャス・バイアス」

アンコンシャス・バイアスとは、「無意識の思い込み」と訳され、私たちの誰もが持っているものです。問題は、そのような無意識の関連づけが相手に影響を与え、ネガティブに作用することにあります。一緒に気づきの時間をもちましょう。

第4回

10/21
14時~



おおくぼ あきら 暁project代表・
大久保 暁さん 児童発達支援管理責任者

テーマ 性・ジェンダー

女性として生まれ、男性として生きる

自分らしく生きるために!性への悩みを抱えた経験から、自分らしく生きることができる、生きやすい社会を目指して活動されている当事者です。近年の若者たちの関心ごとや個性に悩みを持つ方への理解を深め、世代や性を越えたコミュニケーション能力を強化し、つながりを広げましょう。

第5回

10/28
14時~



ふるべ まゆみ まるっと西日本代表世話人
古部 真由美さん 関西学院大学非常勤講師

テーマ 防災

災害後のあなたに起こること

東日本大震災の復興支援を続ける中で得た資料をもとに、長期化する避難生活で受ける健康面、心理面、経済的ダメージの現状を知り、人と人のつながりが、防災時や復興において大切であることを学びます。

*新型コロナウイルス感染症のため開催が変更となる場合がございます。ご了承ください。

編集後記

のっけから恐縮だが、最近、文が書けなくなってきた。おまけに、文字どおり、腕があがらず、背中まで搔けなくなってきた。コロナ禍で座り続けたせいか、坐骨神経痛とやらで、通院中でもあり、今回、この欄担当も苦痛で仕方なかったが、ありのままにと決めたら気が楽になった。今は亡き女優の、あ、あの人、ほら…「家政婦は見た」の主演、〇〇さんが講演会で爆笑を手にした「齢(よわい)を重ねると、いろんな事が難しくなる。明日は我が身、あさってはあなた達」のジョークがストーンと腑に落ちる。ナルホド…。でも心の片スミに、誰にだってしんどい時もある「生きてるなあ」「人間やなあ」って感じられる自分もいるから、おかあちゃん(亡)、安心して…。私75歳、後期高齢者。

編集発行/一般社団法人 高槻市人権まちづくり協会 (☎647-7825)

「あくていぶ」は協会ホームページからご覧になれます。 <https://www.takatsuki-jinmati.org/>

高槻市人権まちづくり協会

検索



<https://www.facebook.com/takatsuki.jinmati/>